

平成27年 9月 11日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 日本共産党

報告者： 谷口隆明

実施場所：朝来市和田山ジュピターホール(大)	実施日：9月5日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 庄原市の「第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」では、平成29年度からの「一般介護予防事業」への移行に向けて、地域ケア会議の機能強化が重点事業に掲げられている。その際、これまで各支所の範囲ごとに行われてきた「個別地域ケア会議」「日常地域生活圏地域ケア会議」の充実とともに、市全体を統括する「庄原市地域ケア会議」が新たに設置されることになっている。朝来市では、事業所の枠を超えた全国でも先進と言われる市全体の「ケアマネジャー協会」の活動が盛んで、その地域ケア会議や包括支援センターの運営について学ぶため。	
■参考とすべき事項 <ul style="list-style-type: none">・朝来市では、平成18年から計画的にケアマネジメント支援システムを作り上げてきた。地域包括支援センターありきでなく、主任ケアマネジャーを育て、そのネットワーク、チームワークを大切にしている。・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の垣根を越えた学び合いの場を設定し、主任ケアマネジャー同士が悩みを共有し、支え合う関係をつくり、得られた経験を後輩に伝えるシステムができています。「良い支援を受けた援助者は、良い支援ができる」…これは「利用者とケアマネの関係」「ケアマネジャーと主任ケアマネの関係」双方に共通するプロセスとして確立されている。・「個別支援」中心だったケアマネジャーから、その積み重ねの実践から普遍的な傾向もつかみ、ケアマネジメント支援システムを通じて、「利用者を地域で支えること」と、「利用者を支えるための地域をつくること」ができるようになると言われた。それが本来の地域包括システムの構築につながってきているようだ。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） <ul style="list-style-type: none">・庄原市にも「ケアマネジャー協会」はあるようだが、講習会を開く程度で、行政や社会福祉協議会、居宅介護事業所の枠を越えた、支え合い、学び合いのシステムはできていないようだ。第6期の高齢者福祉計画・介護保険事業計画で新たに設置される市全体を範囲とする「庄原市地域ケア会議」が有効に機能するよう、朝来市の取組から大いに学び具体化できるところから取り入れていくべきだと考える。・ただ、それぞれの自治体の取組の経過が違い（朝来市の10年近い計画的なケアマネジメント支援システムの成熟過程は庄原にはない）があり、簡単ではない。地域ケア会議の進め方とケアマネジャーを育てるケア会議の持ち方は参考になるのでは…。・その際、朝来市のケアマネジメント支援会議の内容は参考になるのでは。矢継ぎ早の意見やアドバイスはいったん飲み込んで、事例提供者の言葉をじっくり聞く、「待ちの姿勢」「余裕」が必要なこと…等。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。